

インターネットにみる“子育ての悩み”の現状に関する一考察

○ 東北福祉大学大学院 博士課程 日野 さくら (8152)

キーワード：インターネット、子育ての悩み、子育て支援

1. 研究目的

1994（平成 6）年、「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について」（エンゼルプラン）が制定され、現在は「子ども・子育て支援法」に基づき、子育て支援は様々な形態で展開され、また研究がなされている。

しかしながら、子育て支援の前提となる悩みや苦しみ等その実態については十分に明らかにされていない。そのため、本研究においては、子育て支援に関する基礎的研究の 1 つとして子育ての悩みに着目し、その内容を改めて点検することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

拙稿「乳幼児期の育児不安に関する研究—100 年間における育児相談の内容の変化から—」（2009）では育児雑誌や新聞に掲載されている読者投稿欄に取り上げられている内容を概観した。課題として、育児雑誌や新聞を購入し読むことのできる読者のみが対象となることや、編集者の意図が入り込む可能性があげられたため、本研究においてはインターネット上に投稿されている“子育ての悩み”を取り上げることとする。

総務省（2011）によると、インターネット普及率は 79.1%であり、20-29 歳は 97.7%、30-39 歳は 95.8%と高い水準を示している。また、後藤（2011）が行った調査では、妊娠期・0 歳・1 歳・2 歳の第 1 子を持つ妻と夫を対象とし、育児の情報源について育児中の妻 81.6%がインターネットと回答している。以上のことから子育て中の情報源、ツールとしてインターネットは有効であるといえる。

本研究においては、株式会社 OKWave が運営する、インターネットサイト〈質問・疑問に答える Q&A サイト OKWave〉を用いることとする。OKWave を用いた理由としては、インターネット検索エンジン goo や楽天みんなで解決 Q&A 等が OKWave のシステムを使用しており、一サイトのみではなく複数に開かれており、日本初・最大級の Q&A サイトとして運営しているためである。

期間は直近の 2012（平成 24）年 1 月、4 月、7 月、10 月を対象とした。

また、対象とした内容は、100 を超えるカテゴリのうち〈育児〉に投稿されている内容とする。投稿された内容は、大項目として①基本的生活習慣、②発育・発達、③医学的問題、④生活環境、⑤育児方法の 5 つに分類する。中項目として、基本的生活習慣は 5 項目（①睡眠、②授乳、③離乳、④排泄、⑤その他）、発育・発達は 6 項目（①歩行、②言葉、③身体発育、④社会性、⑤性格、⑥くせ）、生活環境は①家庭、②近隣・地域の 2 項目、育児方法は①健康、②しつけ・教育の仕方の 2 項目に分類する。また、投稿時間を労働基準法に基づき、早朝・深夜（22 時～5 時）、午前（5 時～12 時）、午後（12 時～22 時）の 3 つに、投稿された内容から子どもの年齢を 0 歳～2 歳までは半年ごとに、3 歳～6 歳までは 1 年ごとに、その他乳児、幼稚園、小学生、中学生、生まれる前、表記なしの 17 に分類する。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理指針に従い、引用・参考文献等を厳密に明記するなどの倫理的配慮を行った。

4. 研究結果

2012（平成24）年1月1日～1月31日の投稿件数は295件、投稿された内容の分類では、その他が69件と最も多く、次いで医学的問題が60件であった。2012（平成24）年4月1日～4月30日の投稿件数は316件、投稿された内容の分類はその他が81件と最も多く、次いで医学的問題44件、しつけ・教育の方法39件であった。2012（平成24）年7月1日～7月31日の投稿件数は362件、投稿された内容としてはその他79件、しつけ・教育の方法52件、医学的問題45件であった。2012（平成24）年10月1日～10月30日の投稿件数は274件、投稿された内容はその他86件、医学的問題39件であった。いずれの期間も最も多かった年齢は0歳～5ヶ月、次いで6ヶ月～11ヶ月であった。投稿時間については、2012（平成24）年4月を除き、午後が最も多く、次いで深夜・早朝、午前の順であり、4月については午後、午前、深夜・早朝の順であった。

5. 考察

投稿された内容を分類すると、その他に分類されるものが多く、子育ての悩みは多岐に渡ることが明らかである。また、午後に次いで深夜・早朝の時間帯の相談が多いことも、インターネットの特徴である。子どもが眠ってから、または時間帯に関わらず緊急時はすぐさま投稿していると考えられる。その他、0歳児に関する相談が多いことから、自由に外出することの出来ない状況でも気軽に投稿できること、内容としては医学的問題に関する相談が多いことから初めて遭遇する状況への対応を求めているのではないかと考えられる。インターネット上に投稿される子育ての悩みは、育児雑誌や育児書には記載されていない、自分の子どものことについて相談することの出来る道具であるといえる。

全体的内容について着目すると、子どもの状態に関する相談が最も多いが、中には子どもの状態にイライラする、母親自身が育児に自信がもてないこと、おしやれをして外に遊びに行きたい等の思いが各月全体の4分の1程度投稿されているほか、父親や親族への不満が各月全体の4分の1程度投稿されている。また、発達障害等についての心配が各月13件前後投稿されており、内1～2件は保育士や医者から発達障害と指摘されたことから生じていた。これらは育児雑誌等にはみられない傾向である。

本研究の課題としては、属性が把握できないこと、文字のみの情報であるため面接であれば受け取ることの出来る非言語的な情報が得られないこと等があげられる。

以上のことから、子育てについての悩みは、子どもの状態特に月齢が低いほど多く、また半数は子どもに対しての悩みではなく、自身の思いや周囲とのかかわりから生じるものであることが明らかである。それらに対してどのような支援をしていくことが可能なのかについて、検討する必要があるといえる。

文 献

- 後藤恵子編（2012）『速報版 第2回妊娠出産子育て基本調査』ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所, p. 6 (http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/research/research_23/pdf/research23.pdf, 2013. 5. 7)
- 日野さくら（2009）「乳幼児期の育児不安に関する基礎的研究—100年間における育児相談の変遷から—」『東北福祉大学大学院総合福祉学研究科 社会福祉学専攻紀要』第7巻, pp. 64-87
- 総務省（2011）『平成24年版 情報通信白書』
- 株式会社 OKWave「質問・疑問に答える Q&A サイト OKWave」(<http://okwave.jp/>, 2013. 5. 7)